

第百号祝

東京都指導主事 田 中海庵

「若越習字」一〇〇号記念号発刊—と聞いてまことに御同慶にたえません。
本誌は、今日、全県下習字教育上の一大燈明として、恵みを全学生及び一般に施し、これによって幹部役員各位は、結束と発奮を続けられ、県下の文化発展に寄与せられつつあること多大なるを信じます。

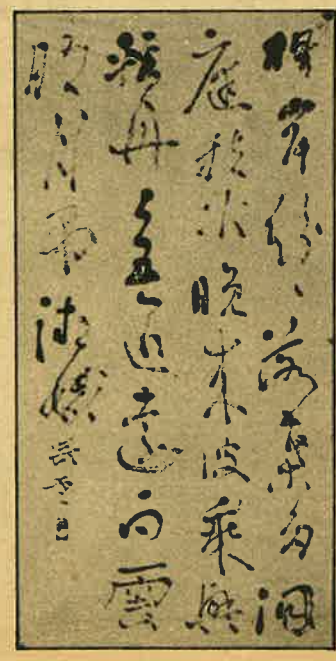
昭和二十二年秋、全県下同志各位の一大結集成って、不肖私は、初代若越書道会々長に推されました。そして本誌発刊の準備は着々幹部各位の御協力により進められ、十月には創刊号を見ることになりました。間もなく翌二十三年四月に私は一身上の都合により上京してしまいました。上京後も一カ年間空名会長の地位を続けました。爾来、二代三代……と会長及び役員は交代制で今日に至るまで九カ年の長い月日が続けられ、本誌はいよいよ内容を充実し隆成に赴きつつありますことはまことに感謝にたえません。

私は遠隔の地におりまして実務に参画することは出来ませんが、蔭ながら、ひたすら、本誌の発展、幹部各位の御奮闘を祈ってやまない次第であります。一言もって一〇〇号誌発刊の御祝辞と致します。

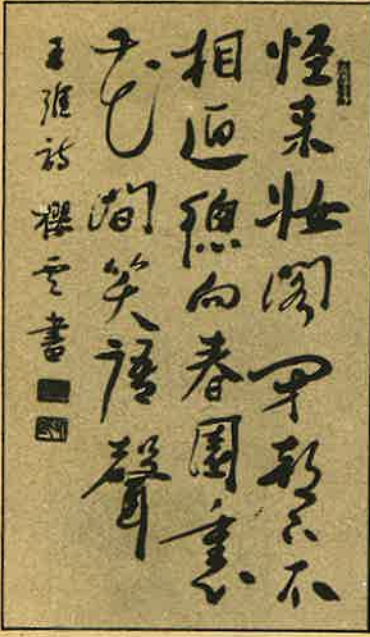
田 中海庵

A vertical calligraphic inscription in cursive style, likely a congratulatory message from Tanaka Kai-an.

杉 本 長 雲

A vertical calligraphic inscription in cursive style, likely a congratulatory message from Sugimoto Nagumo.

向 川 桜 雲

A vertical calligraphic inscription in cursive style, likely a congratulatory message from Mukai Sakuragumo.

佐 々 木 文 陽

A vertical calligraphic inscription in cursive style, likely a congratulatory message from Sasaki Monryu.